

「原子力に関する宗教者国際会議」活動報告書

2012年12月3日（月）－7日（金）

2013年5月31日

報告者：日本キリスト教協議会総幹事

「原子力に関する宗教者国際会議」準備会事務局担当
網中彰子

過去3回開催された「9条アジア宗教者会議」に参加する諸宗教、諸外国の枠組みを生かし、2013年10月－11月に韓国・釜山で開催される世界教会協議会（World Council of Churches）に日本から提言を出せるよう、2012年中に標記の会議を行うよう、海外諸団体より要請を受け、2012年4月に準備会を立ち上げ、同年12月3日（月）－7日（金）まで郡山・会津若松での被災地事前現場研修を含め、会津若松ワシントンホテルを会場に国際会議を開催した。

慣例により沖縄を一地域と数え、11地域、87名の参加を得て協議がなされた。詳細なプログラム、参加者名簿、講演レジュメ等は添付の当日配布冊子に記されている。呼びかけは日本キリスト教協議会（National Christian Council in Japan）が行い、事務所を同オフィス内に設け、事務方はNCC総幹事、アルバイト2名（内1名会計担当）で行った。会議の内容決定は準備会委員が行った。国内外に献金を呼びかけ、財政面が支えられたことを心より感謝する。特に庭野平和財団の多大なご尽力なくしては開催し得なかった。

福島第一原発事故の影響を受けている方々の状況を知るため、地元宗教者、被災者の方々の声を聞き、宗教者としての今後の支援の方向性を見極めるため言語別の協議も行われた。世界に長期的支援の必要性を訴える機会として参加者各自が自国に報告できるよう、最終日には「福島信仰宣言」をまとめた。また、被災者の要望により、幅広く活用出来る形での、政府・東京電力への「嘆願書」を別に作成した。これはそれぞれ署名をして送付していただくことにより、具体的な声を届けるためのものである。

原子力発電所事故が起きた時の影響の大きさを体験した日本として、ただ原子力発電から遠ざかることだけを目的とせず、今後必要となる信頼し得る代替エネルギー源を模索しつつ会議は終了した。直後のWCC総会の準備実務会で協議のためのワーキングペーパーに会議の詳細が反映されており「福島信仰宣言」「嘆願書」共に英訳され用いられている。

その後5月31日の時点で、WCC総会において「日本国憲法9条に関するワークショップ」と共に、韓国のKorean Host Committeeと協働で「原子力に関するワークショップ」の枠を与えられ、具体的準備を継続している。

仏教者の協力をいただき、宗教者の提言が出されたことは、今後も評価され続けることだろう。継続する多くの課題を祈り担いつつ、なお実りある活動をしていくことを願う。